

第 82 回日本臨床外科学会総会

<ビデオシンポジウム> (公募・一部指定)

1. ロボット支援下直腸癌手術の郭清手技

直腸癌に対するロボット手術は TME だけでなく、精緻なリンパ節郭清にも有用と考えられる。今回は、ロボット手術における安全で的確な中枢側や側方のリンパ節郭清手技について治療成績も含めて討論していただきたい。

2. 高難度腹腔鏡下肝切除の定型化と工夫

腹腔鏡下肝切除は、標準的な手術方法となりつつあるが、亜区域・区域切除においては未だ困難な場面に遭遇する。各区域の同定方法や展開方法の工夫など、より詳細に紹介していただきたい。

3. 肝門部領域胆管癌の術式選択と治療成績

肝門部領域胆管癌に対する手術の難易度は高く、同じ術式であっても施設間のばらつきは大きい。とくに、安全性を考慮した標準的な切除手技ならび成績を提示していただき、討論していただきたい。

4. 膵癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除

腹腔鏡下膵体尾部切除術は、膵癌（周辺臓器及び脈管の合併切除を伴わないもの）にも保険適応が拡大されるとともに広く普及してきた。腹腔鏡による拡大視効果は後腹膜臓器の丁寧、正確な切除に効力を発揮し、またエネルギーデバイスの日進月歩で、腹腔鏡下膵切除はさらに進化している。本セッションでは、定型化された手術手技を披露していただき、膵癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術の今後の発展性、将来的展望を討論していただきたい。

5. 呼吸器外科領域のロボット手術の現状と将来

三次元視野下に関節を有する自由度の高い鉗子を用いて巧みな手術操作ができるロボット支援手術は、従来の内視鏡手術の欠点を補う新たな低侵襲手術術式である。また、2018年4月、Da Vinci によるロボット支援手術の保健診療が認可され、手術症例数は、飛躍的に増加している。ロボット支援手術の現状とその利点や技術的な問題、今後の展望について論じていただきたい。

6. 肥満減量手術 -コツとピットフォール-

肥満関連慢性疾患に対する治療効果を期待して、肥満減量手術は、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を中心に急速に普及してきた。ただ、病的肥満を対象とした手術であり、糖尿病や循環器・呼吸器疾患、精神疾患などの併存症に加え、こ

第 82 回日本臨床外科学会総会

れまで日常臨床では経験したことのない腹腔内脂肪の中での手術操作が要求される。同手術の安全な導入に向けて、手技のコツやピットフォール、そして周術期管理のポイントも含めて討論していただきたい。

7. ロボット支援下胃切除術の定型化と治療成績

ロボット支援胃切除術は、2018 年に保険収載されて以来、急速に全国での導入が進んでいる。手術支援ロボットの潜在能力は、従来の外科手術とは本質的にまったく異なる可能性を秘めているが、その開発やデータ集積に関しては端緒を開いたばかりである。ロボット支援下胃切除術の定型化に向けた取り組みと手術手技の工夫、そして治療成績を示しつつ、将来展望を交えて討論していただきたい。

8. アプローチ別にみた胸部食道癌に対する上縦隔リンパ節郭清のコツ

食道癌手術は、近年、近接・拡大視効果、低侵襲性の優位性から、縦隔鏡を含めた内視鏡外科手術が急速に普及してきた。一方、高度進行症例など、開胸アプローチが必要な症例も依然存在する。胸部食道癌手術のキモといえる上縦隔リンパ節郭清のコツを内視鏡下手術（縦隔鏡、腹臥位、左側臥位、ロボット支援）や開胸手術など、それぞれのアプローチに適した郭清手技を紹介していただきたい。

9. 食道胃接合部癌に対する郭清と再建 -根治性と安全性との狭間で-

食道胃接合部癌は、その解剖学的特性から、アプローチ法、切除・郭清範囲に関して多くの議論がなされてきたが、いまだ施設あるいは術者間で大きく異なっているのが現状である。さらに、縦隔吻合における高い縫合不全率や術後逆流性食道炎は解決すべき課題のひとつである。食道胃接合部癌に対する切除範囲や郭清程度、再建法の工夫などを、治療成績を交えて紹介していただきたい。